



No. 7

会長 長井 典夫
幹事 白石 隆夫
クラブ会報委員 長齋 藤達雄
第1週例会 2016年9月2日(金)
例会会場 毎週金曜日 12時30分
事務所 ホワイトイン高崎
 高崎市本町144-1
 光明第7ビル202号室
 TEL 027-328-3371
 FAX 027-328-3372
<http://www.takasakisymphony-rc.org>
 E-mail:sym@po.wind.ne.jp
事務局員 浅見 洋子
本日のプログラム 会長の日 長井典夫会長
ロータリーソング 君が代、奉仕の理想



表彰

- ロータリー財団寄付
ベネファクター 長井 典夫君



委員会報告

- ニコニコBOX
高崎東RC 荒井 芳明君 (よろしくお願ひします)
高崎東RC 林 進君 (久しぶりです。よろしくお願ひします)
反町 光輝君 (会員卓話、頑張ります)
島崎 真澄君 (又、よろしく御願ひ致します)
白石 隆夫君 (初孫ができました。女の子です)
小林 彌君 (昨夜のスキー部ワインの会ありがとうございました。)
池田 貴明君 (スキー部ワインの会。おいしいワインごちそう様でした)
発地富士雄君 (8月誕生日祝として)
- ロータリー財団BOX
浦野 幸男君 三浦 敦朗君
西野 宏君
- 米山奨学会BOX
長井 典夫君 西園 勲君
浦野 幸男君
- 親睦委員会
来週は納涼夜間例会、9/12高崎RC合同夜間例会、9/23高崎北RC合同夜間例会と続きます。皆様のご出席をお願い申し上げます。

第939回例会報告

第3週8月19日(金)

会員卓話 反町 光輝君
御来訪者 3名
 高崎東ロータリークラブ 会長 荒井 芳明君
 林 進君
 佐相 正芳君



出席報告

会員数	42名
出席計算人数	42名
本日出席者	27名
本日出席率	64.29%
先々週出席率	64.29%

幹事報告

- 例会変更
- ハイライトよねやま
- 神戸東灘RC週報
- 熊本・大分地震 義援金の御礼
- 会員満足度アンケート提出のお願い

高崎東RC 荒井会長より

今年度受入の交換留学生を当クラブと共にホストファミリー(2017.1~2月)をお引き受けいただきありがとうございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

次回例会予告

第2週9月12日(月)

【高崎RC・高崎シンフォニーRC合同夜間例会】
 会場：高崎ビューホテル 2階「HARUNA」
 (柳川町70 TEL027-322-1111)

受付：18:00~
 点鐘：18:30



自己紹介

反町 光輝

最初に簡単に会社プロフィールを紹介させていただきます。反町自動車ボデーは、私の父が創設し今年で創業51年になり、去年50周年を迎え大規模なリニューアルをいたしました。

私が子供のころは大変な仕事だなあと感じており、30年以上前になるのですが、企業というより家業といった感じで家のリビングが会社の事務所と応接室を兼ねていたため朝から晩までお客様が来ていただけなのですが、当時はまだ子供だったため夕方になると大切な話をしているのだろうなとわかりつつもお腹が減ったという気持ちでした。

当時、父と母は朝から晩までずっと仕事だったため反町家には独特なシステムがありました。そのシステムとは、子供が小学校5年生になると母親が1000円札を渡し、その1000円で両親と兄弟5人、計7人分の夕飯のおかずを考えて買ってくるというものでした。ですが私は、上の兄がなぜかおつかいをしなかったため、3年生からおつかいをしていました。遊びたい盛りの小学生ですので遊びに誘われることも多く、誘われるたびにおつかいが終わってから遊んでいたため「おつかいみっちゃん」というあだ名で呼ばれていました。

また、住んでいた家も橋の下の家のほうがましなんじゃないかという家で、その家によく毎日お客様が来てくれていたなと思います。そのように忙しく働いていた父親ですが、当時から父親を尊敬していたところがあります。それは、自分たちはそんなボロ家に住んでいながら自分の両親には新築の家を建てて住ませたことです。そのことは子供ながらに親父かっこいいなという思いで見っていました。

さて貧乏自慢はこれくらいにさせていただきます、そろそろ会社の自慢をさせていただきますと思います。冒頭で話した通り、去年、大規模なリニューアルをしたのですが、その理由といたしましてはこの仕事についてからずっと考えていたことがあったのですが、それは自動車を修理するときに「直す」という漢字を使うのですが、それでは単純に物を直すだけです。しかしお客様によって車に対する価値観は違います。ただの足という人は、見た目はそれなりで安く仕上げしてほしい、宝物のように大事にしている人はお金も時間もかかってもいいから綺麗にしたいという人、さまざまなお客様のご要望にお応えしてはじめて車を「治す」ことができるのだと思います。

そして、すべてのお客様のご要望にお応えするために、設備投資をしてリニューアルいたしました。具体例としては、「フレーム修正機」という、車がぶつかり骨の部分が歪んでしまったものを修理する機械です。いままでの「フレーム修正機」でもお客

様に十分に安全をお届けできていたのですが、ただ「治す」だけでは、お客様に安心をお届けできていないのではないかと思います。「3Dフレーム計測器」という三次元で車を計測することができお客様にデータで安全をお見せすることができる機械を導入し、お客様に安全な車に安心して乗ってもらうことができるようになりました。

また、修理した車の塗装を行う塗装ブースには、板金工場としては全国的にも珍しい食品工場などに使われるエアシャワールームを設置し、噴き出してくるエアで小さなゴミやほこりなどを吹き飛ばしゴミがない密閉されたブース内で塗装を行うことができるようになりました。

ですが、自動車の板金塗装は事故によってマイナスになったものをどうにかしてゼロまでもっていくことしかできません。なのでゼロからプラスにすることができるようなことがしたく塗って剥がすことができる「ラバーディップ」というサービスを始めました。従来の塗装は全塗装をすると時間と費用がかなりかかってしまい、車自体の価値も下がってしまいます。「ラバーディップ」は全塗装に比べおおよそ半値で行うことができ、仕上がりも2日～3日ほどで、剥がすと元通りになるので部屋の模様替えのように気軽にすることができます。

事故を起こしてマイナスになった車とおお客様の心を、最新の機械や「ラバーディップ」などの技術でゼロ、そしてプラスにもっていけるのではないかと考えています。

そのような、良いものを皆様にも知ってもらいたいと思い、今は宣伝活動にも力を入れていて先月、全国紙のモノ・マガジンという雑誌にもとりあげいただくことができました。また、来年は東京オートサロンという全世界からカスタムをした車が集まる展示会にも出店予定です。

しかし、自動車板金塗装業界はまだまだ3K（きつい、汚い、給料安い）という業界と言われており、私はそれを少しずつでも改善していきたいと思い、板金組合の青年部の会長もやらせてもらい全国のさまざまな場所に行き、いろいろな人とお話をさせていただき、改善には一人ひとりの意思が重要だと気付きました。私たちの業種はサービス業であり、技術があるからといって自己満足するのではなくお客様に喜んでいただくための技術だと私は思っています。靴のかかとを踏んづけてポケットに手を入れながら仕事をするのではなく、誰かから見られているという自覚をもって仕事をするのがサービス業にとって必要なことだと思います。

8月19日のお食事

